

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：エルドアン首相の訪日

(報道取り纏め)

2014年1月6日から8日の3日間、トルコのエルドアン首相が10年ぶりに日本を訪問し、安倍首相との首脳会談や講演を行った。エルドアン首相の今回の訪問は、安倍首相が2013年に2回トルコを訪問した事への返礼として行われ、副首相や経済大臣等主要閣僚7名と経済ミッションを引き連れての訪日となった。7日に行われた安倍首相との首脳会談では、双方の緊密な連携を更に強化し、様々な分野で協力関係を深めていくことで合意した。首脳会談の主要な内容は以下のとおり。

- ①2013年10月に安倍首相がトルコを訪れた際に大筋で合意している、スィノプでの原子力発電所建設等、原子力協定締結の早期締結を目指すことで合意した。
- ②2013年10月より運行が開始されたマルマライ・プロジェクト(ボスフォラス海峡横断地下鉄)に関して、追加円借款供与の表明がなされた。
- ③年内の経済連携協定(EPA)交渉開始を目標に、両政府間で協議することに合意した。
- ④日トルコ科学技術大学の設立を実現するべく、両国が一層協力することの覚書に署名した。

安倍首相は2013年5月と10月にトルコを訪問しており、今回のエルドアン首相の訪日で両国の首脳が顔を合わせるの、2012年12月の安倍首相就任以来3回目となった。二国間関係はこれまでも良好であったが、今まで以上に親密な関係を築いているように思える。好調な経済成長を続け、地政学的にも重要な地位にあるトルコとの関係強化は日本にとっても有益であろう。不安定要素が多い中東・北アフリカ地域にあって安定していると言われてきたトルコだが、2013年6月に強権的な政治手法が目立ち始めたエルドアン首相に反発するデモが全国で発生し、同年12月には有力閣僚の息子が絡む汚職問題が露見、3名が辞任に追い込まれ首相自身にも疑惑の目が向けられている。また、有力な支持者であったギュレン運動の指導者で、有力なイスラーム法学者ギュレン師との確執が連日報じられており、10年という長期にわたり政権の座にいるエルドアン首相の求心力が徐々に弱まりつつあるとも言える。国内で大きな問題に直面しているからこそ、外交で大きな成果を持って帰りたいという思惑もあるだろう。

(金子研究員)

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799